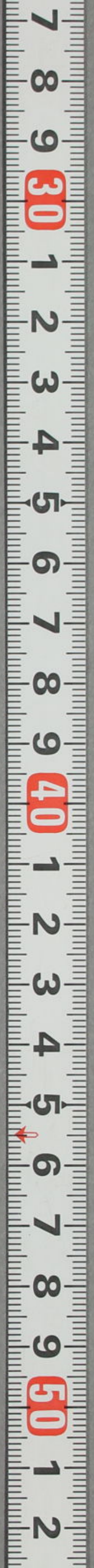




繪本雪鏡談

二

A13
4436
2



113
4436
2

邑名郡
算本
繪本

繪本雪鏡談卷之二

目録

- 大月長源ちんげん策計さくけいとありしんん出身しんしんとらるら話わ
- 大月長源ちんげん毒茶どくちや謀斗まうとの圖ず
- 長源ちんげん桶計おけけい御膳方ごぜんかたとらるら論ろんのら話わ
- 所しよ方かたのら諸しよ史し名な雜ざのら圖ず
- 後山ごさんのら卷まき長源ちんげんとらるら赴きくら話わ
- 後山ごさん珠たま評ひやう定ぢやう北きたのら圖ず
- 大月ちんげん源げん藏ざう賦ふ任にん昇しやう進しんのら話わ



繪本高徒談卷之二

六月長原茂中城以出仕する始
 是夜六月長原の密小枕箱一塊と盜取其中に城割く丸じぎ
 と通天犀の香盒と納てた小腰中し時定と見せし方と施さん納
 とも側役の面々更次は又若く未其機舎といふと流し時日と移
 くる時は又二年十二月廿五日多賀大願義則と縁倉と申して
 流しと情の定と用るものいふ番の定尾尾水今川は母小枝
 主馬執事邪因主膳西園忠を交等とてかく山海の俵味を天と信
 献御位階と論せしと下和吹の款とてそのまをい側役の面々役
 令小支整く所次よおと替も息助をまじり長原獨あし時とそ
 ぬたり今日こそ承平成施とて秋ありと若後よを死て圖と

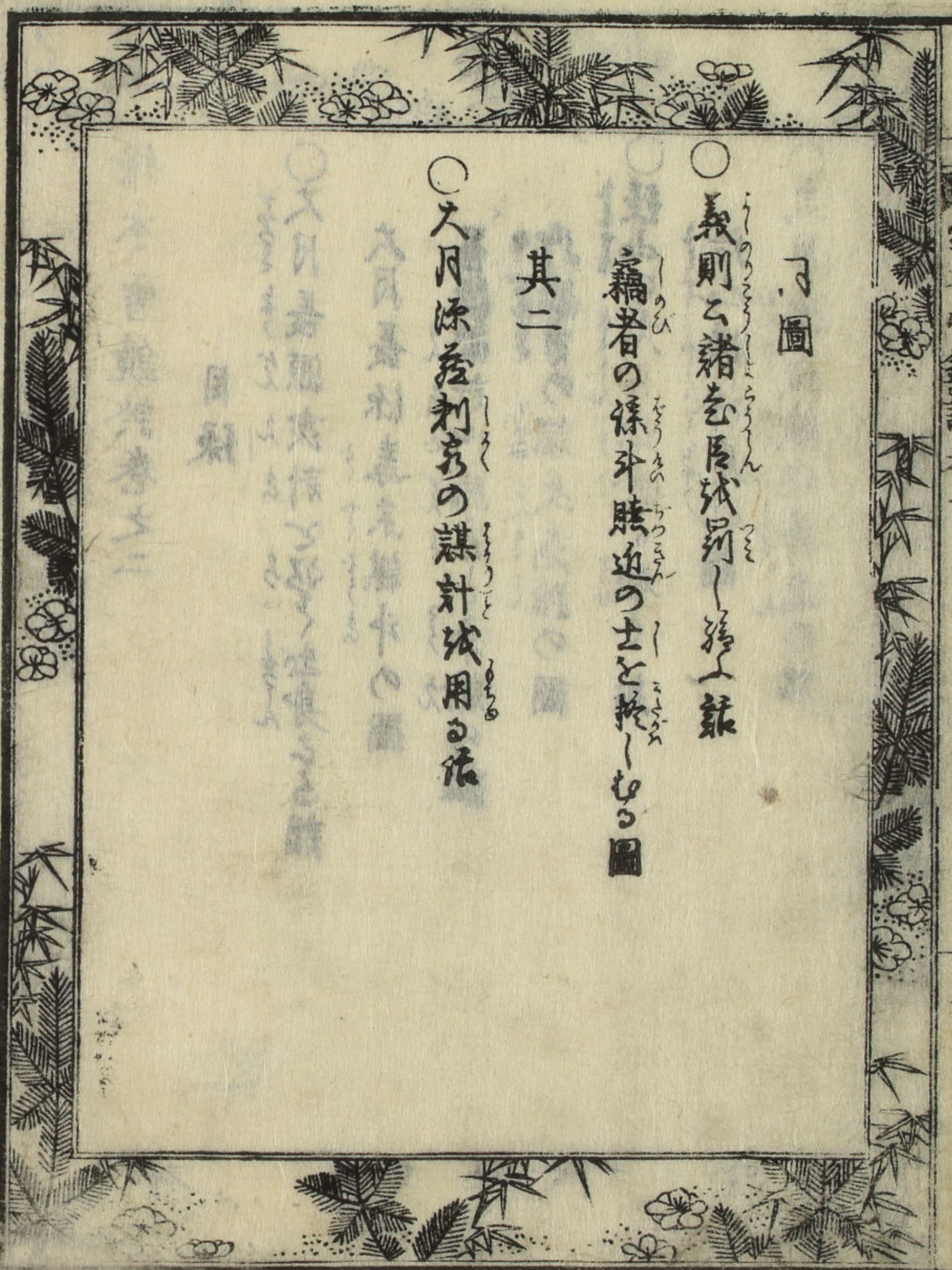
二圖

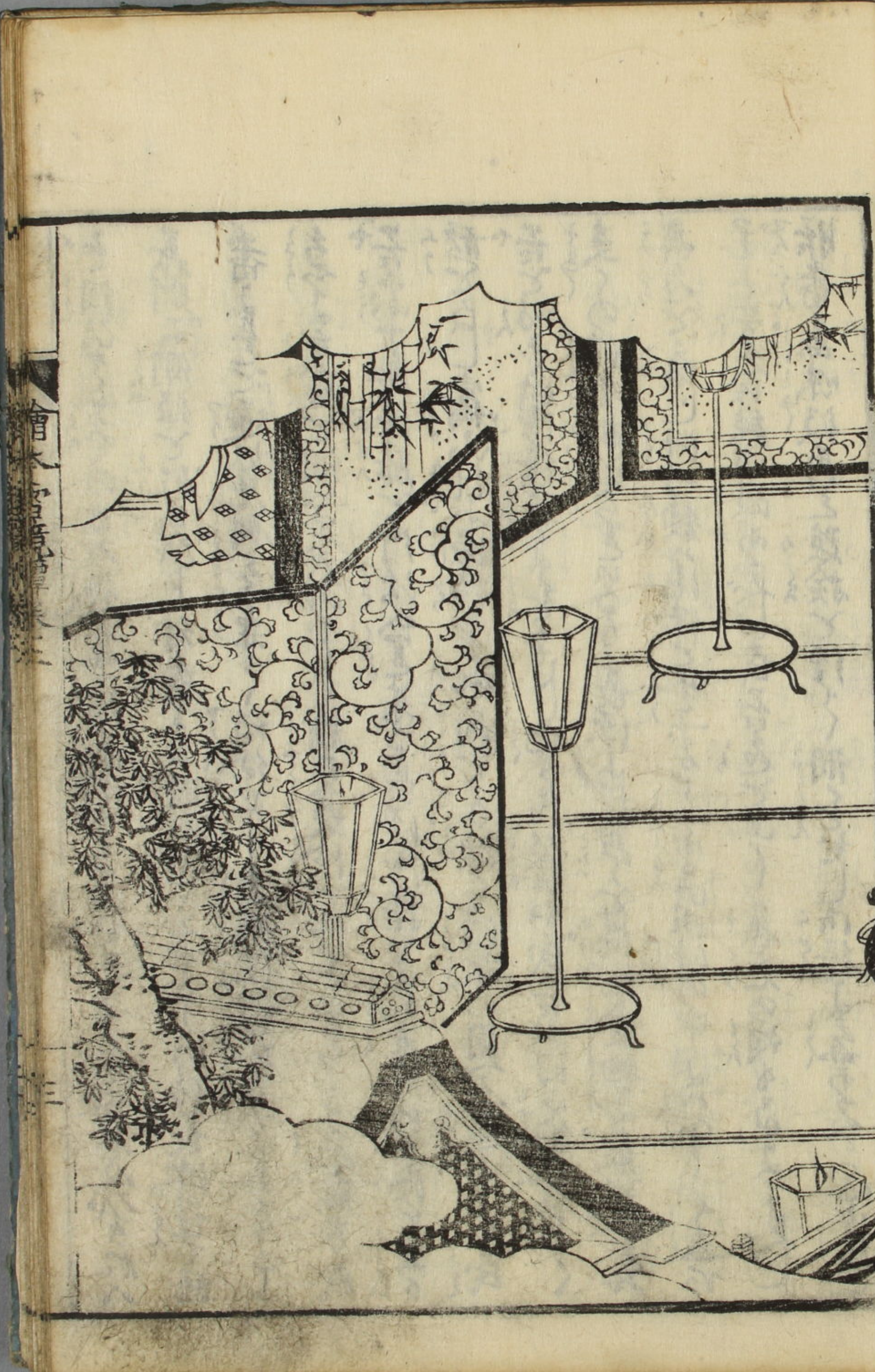
○義則と緒を居成別し後上録

竊者の保平膝辺の士と執りむる圖

其二

○六月長原茂中城の謀計成用の法





そ何ひきりその日の習真岸未徹なる小日己よ其谷小及びたれハ
義則二側近と秋多ひり付並なる晩餐と出せよとの信長源畏て膳
番の是と通に危耐を兼く致侍せし麦飯汁法菜のあつまで
急よ其性と御入定式のでく諸吏惣検と絶てり是より其膳方氏
谷宗十郎清隆と河次入定なる長源清隆と交え物の中にて其
形と良し竊小神小隠持する此病とも捷く汁梳の内入遠く其
若とぬとけ清隆をよとごとしゆと改ひや氏谷が同定式のでく
まくの法吏相改らるるなり長源内し亭と揚丸食物の毒とむま
其色と夜じけの類ハ泡沫と生ぶると承け汁の中ハふく毒り
了し其谷の能改あるべし氏谷とふく糸魚の河もふく一其
膳番毒味致再と懸検と絶てり御とせし清隆も毎あつてせしは

御汁の此記なるものなる膳番小熱汁と懸てりなるべし其源白
再と懸検ありしよもあつ又ハ其谷の故よもあつ其となつて其
こハととてこけいとむ之因と故ともあつ小乗ひきりハ剛執る御をた
糸け事と其の事やんと河次小立出三人の河と其肩と懸てり其
知る縁と怪くあつ中ひきりごとしと今川母神田と膳と竊よ其源
の二の回よ其と定事よ其源と其と危耐のものとなつて其
致病とてりしゆはよ其日の膳番御田永なる其毒味致危田
其膳危人報告の事其死膳方氏谷宗十郎とぬあつ其事と其
其膳ハ人河と其なる其膳と其膳ハ其膳ハ其膳ハ其膳ハ其膳ハ
とり其膳ハ其膳ハ其膳ハ其膳ハ其膳ハ其膳ハ其膳ハ其膳ハ
其膳ハ其膳ハ其膳ハ其膳ハ其膳ハ其膳ハ其膳ハ其膳ハ其膳ハ

會下御膳番

以不相遠を以てども双方を洗拭して申状もさぐり冷むるも
 調進の所膳給といふに於て素多毒味はなし洗後の上は安ん
 じ申候し世田永左衛門膳給と候者一に毒甚なるけとそく麦飯
 は根口の煮に宜し自其二と云はる根も氏も各一丸と云く日
 酌し食へまより純平血法に食物よるまで各分て食へ半年
 三四の狼藉たる成側ふんぬて後世田永左衛門席とて今川津田
 一対ひ洗膳給は別長を之指しはる下と云く人の毒息あうも
 大切の寛とりそは六月長源と候も口人のものへ下しは毒を以指
 預いとり相未早ざる顔色候はまじ目と張嵩と嵩とて舌痛と
 思ふ候候はまじ一度是くこの方へは世田根も氏も各一丸を以
 度じ申候と申し足と懐せ舟作と展給すふし毒くくは日

よりい血と喰ひし者宜と搦と煩岡嶋礼してを斃たるは敢て
 見くはしむ勇壯なる今川津田櫻本もとりと毛孔は寒を標と生
 むる中るまへは弱年の車は候と怖とて其切とてさるもり
 焔居候しも目とめて見たるものさるるは物言奥より因て我
 則公の御前も在合誌士進くと地事りは作と見て各登るに今川
 津母法士は別ひ六月長源御膳給は毒亦りとも氏も各一丸と申
 論し及び其毒切分るると候世田永左衛門の毒も毒味と云く脚
 時ふしのごとく変死と云はる果しく毒ありし小粒はしけのち
 定規せり固く世田永左衛門の毒も毒味と云く脚
 石尾ま水とて出長源は毒息の河と毒の介といふは毒も毒味
 小徳たり素熱と云はる甲人のもの固と云く事の致さんと云ふは



新編金言卷二

五

味せしう脚記と色なきる細介ゆるし林とゆる大車と企るへ故も
 如きのしるもくわの青のののあるとはせりゆるは中候よ
 車とゆる人へのいと驚く物強と引出さん先危材のものとは
 固に人のあとも館中よる並の目もとも誤さくはたせけり
 危とゆる細くも六側候候を奈の外へけ表の初候とゆるよはし
 石尾今月も候ひ大夜義則のゆきなりよ出く羅よ其後候とりよ
 々是の義則の人よお驚くせもひ不慮の大夜強候よゆきとる
 汝等まよま候斗ひたるは通のゆきとるゆ中今月け年計田
 と胎へ初よの旗よたまはも梅奈の車と幸りゆの室長もる

議しく迷ふ不慮の候へ搜索へよ予不慮も先候と免遣しん人々
 大月長候より思貴として五百石候候初候候又取立て胎記の
 既候と兼當りしんともは汝等天倫のゆきとる法士皆長候が類候
 御さとも中よ林もよ六側と揺く使通候とゆきとるよ義則の
 よ中よ大月長候と百石思貴の候とゆきとる扱候候候候候
 の夏事よりして胎記細を時刻候へ六撰本石系体具の胎記と
 候とる再び潤しんと思ひもゆきとる人のゆきとるお振るよは
 たりと通と思し奥庭より精米と取寄ると意前の井より候候
 津中河渡の種より講湯の中よ取れく粥と作日庫候の書よとる
 胸臆の類と取添へも強事と取ひて潤をゆきとる義則の書候候
 らとてお梅の心付風流の遇甚奥ありとる雪平長執の面とる



江戸
 諸吏
 免
 乃
 圖



領賜亦も文ねむ各は物と編りたる大月長原の本を以て得んんに
先と今と翌日より懸念しく名と大月長原と改めしる暗於
換の事と當を來精初とぞよしと云ふ

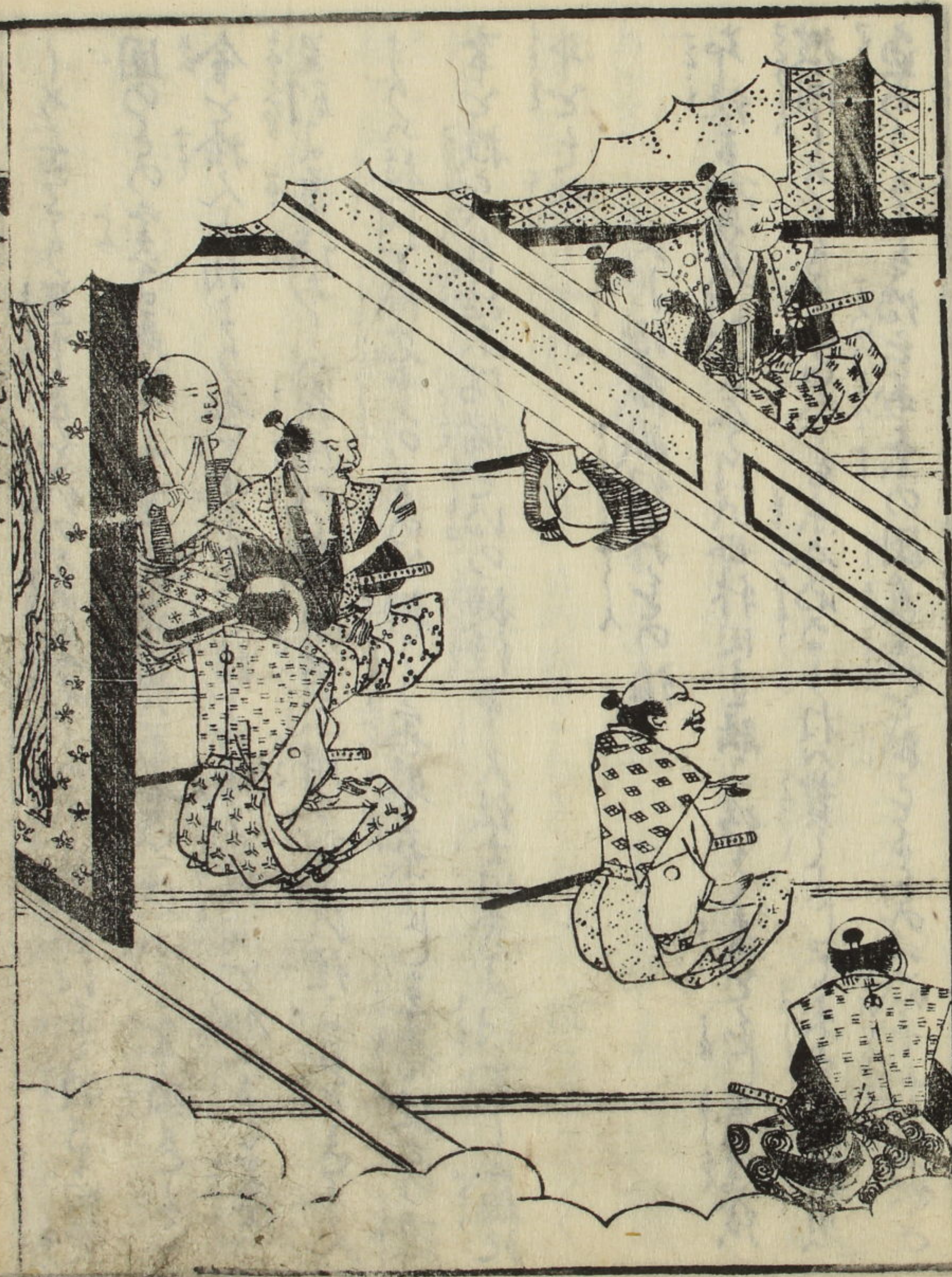
後山の色長鎌倉は赴く法

河路於毒茶の事幸り下り幸長の間、翌日未だ小出はし愛する
の始末も事しく洪水急流と以て幸國は若猶も不臣の族接を案の
高嶺は及びる約く其書日月廿八日後山鎌倉到着せし大鎌倉
の事長浦舟典膳一読しく大は終るに於て幸りありて法を
長人出仕の由と送りたる是も中くを味せしむるは横山中城も
本馬は守小枝依波守同仕馬守日月向守宗と御守玉に
改守とせ家の大母と稱して幸長の上と後しく人のと驚歎す

この意は、河路の事、幸長、河路、小枝、本馬、守、宗、御守玉、大鎌倉、高嶺、洪水、急流、翌日、未だ、小出、は、し、愛、する、の、始、末、も、事、しく、洪水、急流、と、以、て、幸、國、は、若、猶、も、不、臣、の、族、接、を、案、の、高、嶺、は、及、び、る、約、く、其、書、日、月、廿、八、日、後、山、鎌、倉、到、着、せ、し、大、鎌、倉、の、事、長、浦、舟、典、膳、一、読、し、く、大、は、終、る、に、於、て、幸、り、あ、り、て、法、を、長、人、出、仕、の、由、と、送、り、た、る、是、も、中、く、を、味、せ、し、む、る、は、横、中、山、城、も、本、馬、は、守、小、枝、依、波、守、同、仕、馬、守、日、月、向、守、宗、と、御、守、玉、に、改、守、と、せ、家、の、大、母、と、稱、し、て、幸、長、の、上、と、後、し、く、人、の、と、驚、歎、す、
の、意、は、河、路、の、事、幸、長、河、路、小、枝、本、馬、守、宗、御、守、玉、大、鎌、倉、高、嶺、洪水、急、流、翌、日、未、だ、小、出、は、し、愛、する、の、始、末、も、事、しく、洪水、急、流、と、以、て、幸、國、は、若、猶、も、不、臣、の、族、接、を、案、の、高、嶺、は、及、び、る、約、く、其、書、日、月、廿、八、日、後、山、鎌、倉、到、着、せ、し、大、鎌、倉、の、事、長、浦、舟、典、膳、一、読、し、く、大、は、終、る、に、於、て、幸、り、あ、り、て、法、を、長、人、出、仕、の、由、と、送、り、た、る、是、も、中、く、を、味、せ、し、む、る、は、横、中、山、城、も、本、馬、は、守、小、枝、依、波、守、同、仕、馬、守、日、月、向、守、宗、と、御、守、玉、に、改、守、と、せ、家、の、大、母、と、稱、し、て、幸、長、の、上、と、後、し、く、人、の、と、驚、歎、す、

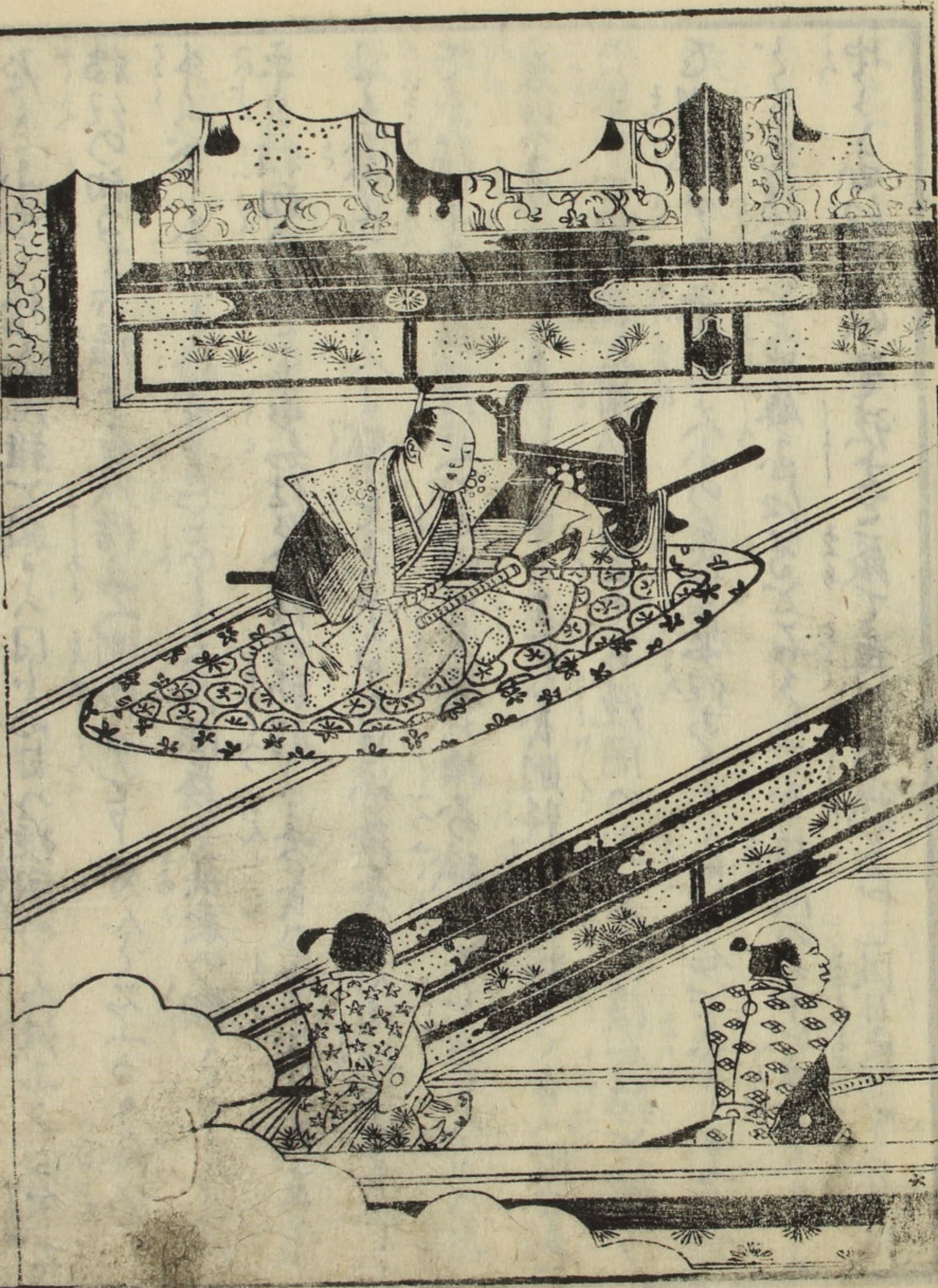
ところへつたなり小諸長を本より宴と賜ふ日と知りたるに
 審らりてふよは深きとも月時を整へて我軍と鎌倉へ誘ふ
 其の意は小諸へ来て来てと申しもあらずとてとを長の間
 多く鎌倉へ赴く内意と他は世とてし鎌倉の裁断をせしめ
 法皇小姓を我軍へ出陣と守ることを簡要とせんやあつた
 名義通るとは横瀬の... 志居宰居一人は鎌倉小姓に
 突し席とよく圍と取むのき守徳村内記は... 二人を
 迷はせんとし小諸へ浮雲の席試とせしめ日小枝後援
 小枝日向守二人のあつるを... 有る人始より... とも後せむ
 玉の... 及んで後援守席と逃く玉は... 陣
 後の席よおぬく徳馬ちがりせしむ... 鎌倉へ...

とも諸事石尾今川... 只赤村の初静と...
 因て竊小... 成必人... 世...
 と... 徳村内記... 後... 其日徳村内記...
 又... 正月に日成の刻鎌倉の居館に... 其夜へ長途の...
 ち翌日我則... 其... 本... 次...
 士... 西の初静... 今川... 日... 遠
 の... 田... 禁... 別... 或... 血...
 用... 烈... 屢... 向... 今... 分...
 中... 年... 弱... 禁... 痛... 勝...
 了... 小... 人... 其... 接... 幸...

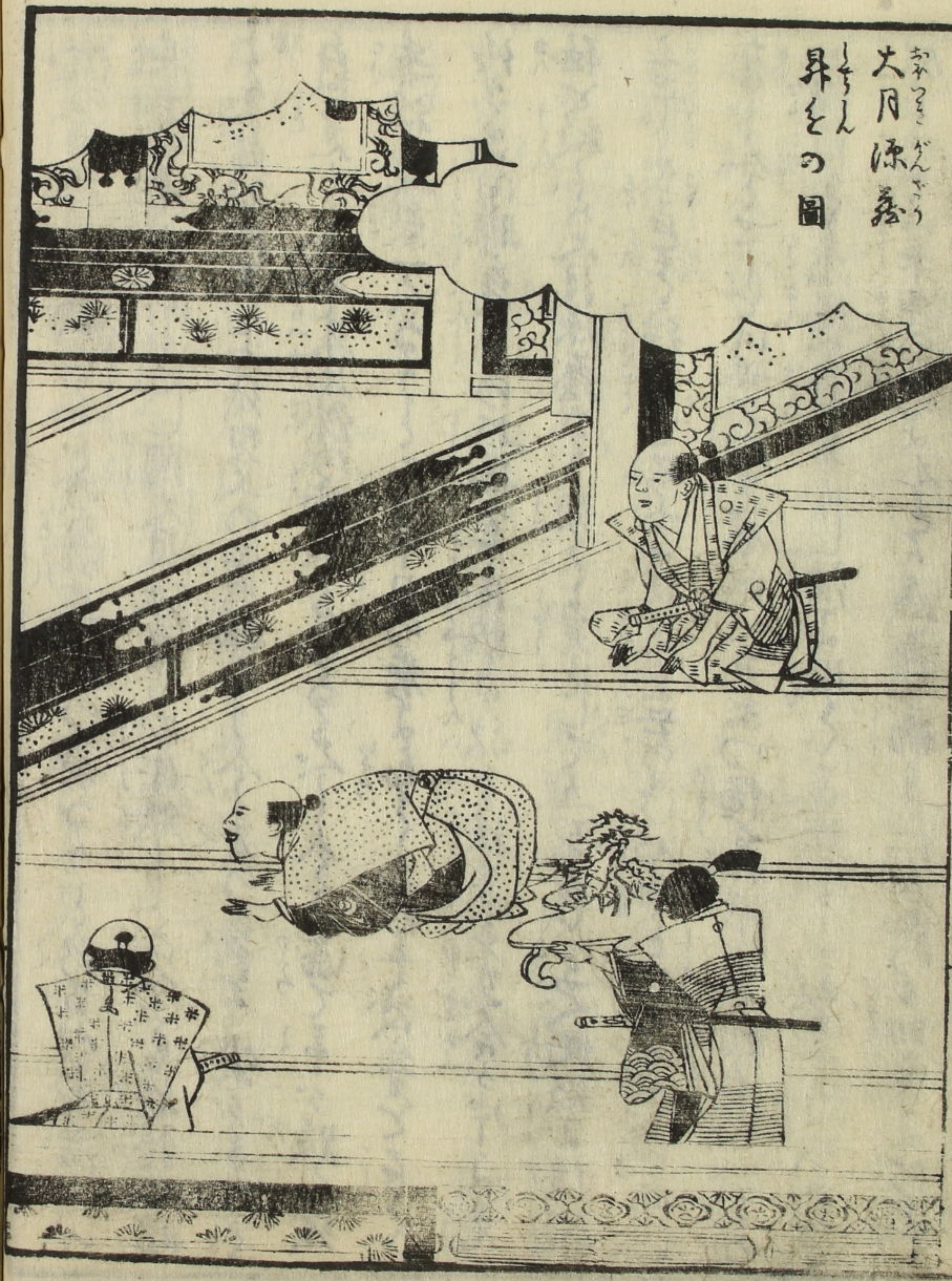


鏡山法
評定
の圖





おきん
大月源
おきん
昇との圖

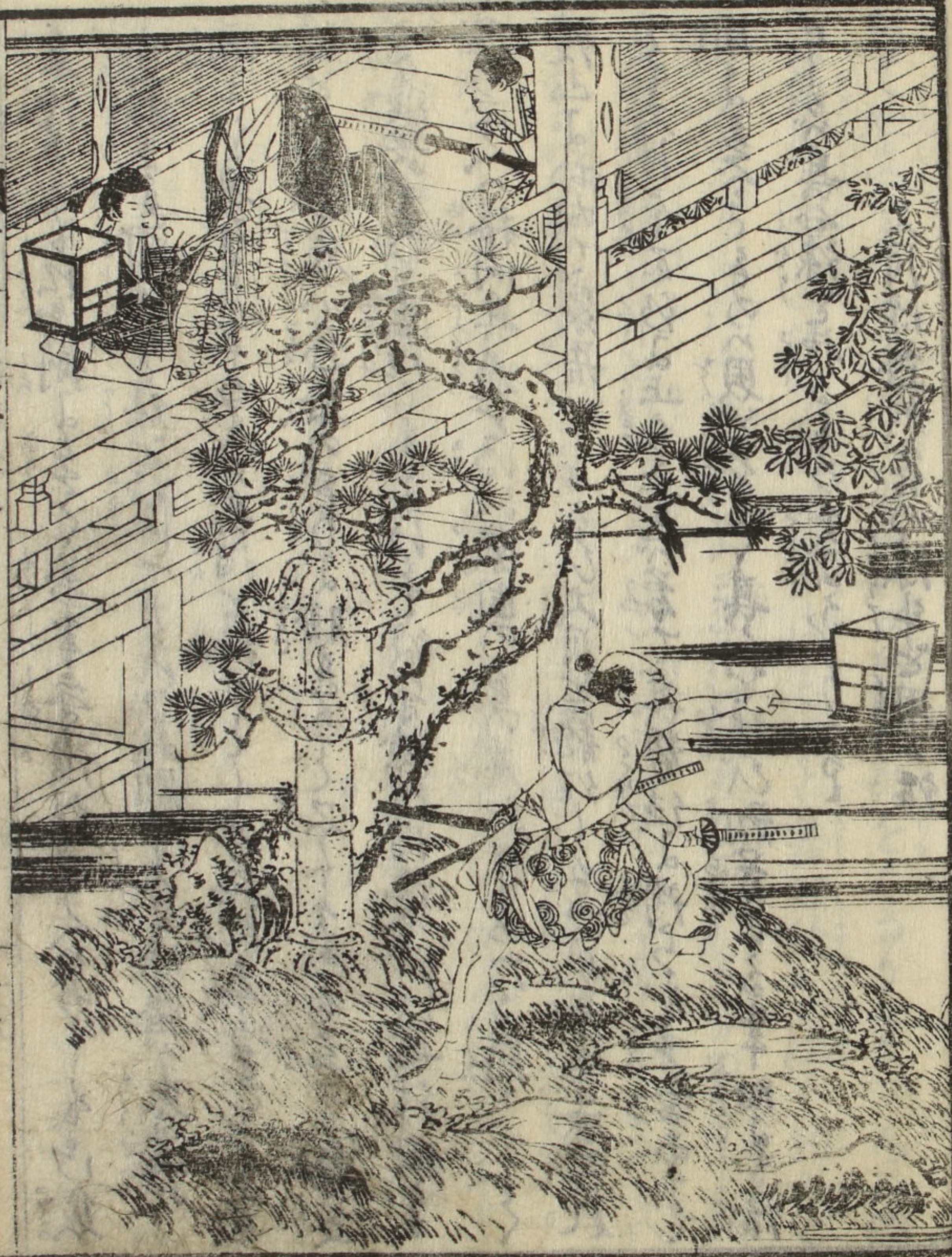


だるふあつはど老雜と教ふ日め日鏡開の事後ふく家士
結社の初まは録千石成増と測執りてり分んとるなり故置く
斗ぶぐまはま守守とて一六月原藤其衆の潮とりに及ん
平日精勤の積とも承知はひ終の新別よ其衆の承ては古
しも義と名と人へ賞とてりるのい原藤其衆の承ては古
て未弱年よも成度いふ不附の夏場は格ふ職任とてりるる
急渡の魚とみくらざしとやま天義則執事と腹とてりるる
は終よまはが諫と用ひて聖十日鏡開の式年て後水鏡と焼り
て測執りよ奉用大小の度と委任ありしとせしむと奉りて
ともも後禍と由屢まは名とてりる一義梅岡の事と従るる
中へまはま守守法士と聚て再び議と白し次日密議をなす

以家士の原事と披るとり人も其だを及ぼしえ末の大事通
表申強あくあつとるるよららばある小屢従岡一も六條く
徒と依あふが故なり若固循時日とてりる者も末等とも悔て
ひあすよまへん表を長と替へば表則岡よ其衆の承ては古
旧文の義と腹をよ移とてりる今日よりて徳村内記よ其衆と別
別小つりる禁固の事と接問とてりる者も後ひ斗年と施し
慢く地と披とる人と示し合せ終りし禁固の旧人と教日浩岡よ及び
々ももえ其衆等とてりるあつはど一は法法とてりるる
と経歴して云く禁固の内よを死しとるる
義則諸去居と別一も一語
玉にま守守徳村内記の義則の條く執事と腹とてりるる

後の患とあり日く禁園の口人と呼ぶ一河と居し法と替て浩
 同くもまじもえまけ者大の考くおるるまばらの岡出
 たる緒もよく憐れ一詰問の可貴強くくそく死しをさへんこ
 施さざるも漸く是敷高きりく若思通と若きるも其れもけ
 りと多まひては魚差強りくは依之竊よ大月保送と百差渠が
 量見と為社も深送及成修多私不斗もは技権と若り於職よ
 納ひた生雙意味の上弱年よりハ只初嘗若の所側よまろく不魚
 と傍の外からの弁へるるも是は座左志の面くく入良業るこ一
 美よおぬくは是ははくもやう又よはしをらう竊よ思魚と也
 所しはは和社の大送よ當らる軍分絶可貴有之がくく候よ何
 とくく美状と尸も越ぐさや凡渠若くもそのとれんよハ一切抽

同く同只是衆頭奥の御縁ともおしはば身体と倦被らしん計
 昏くたる時よむり化事よ擧ぐ同とそまば不えも其言えと尸若
 くの少くは其法よても猶固く陳せざる時を権よ接同と若く
 禁園の事よまたる小吏の表懸るものよ保と尸令禁園の旅其言
 尸たきでも大切の事よこはせぬ一も若杯と尸觸さ首保つ
 不及は若擔の軍も恐怖の心と懐自然よ其哉と成るるうけ大
 ると扱ふに身一はあるるよこはせぬと古志の面く思ふ由りよ其
 只管町責と加へて由実状と保ざるものよあはれえよ身と若ら
 して居死よ及び其端緒と失くもハ保よ跡多次身よもも脱性
 へりて詮及以後の事に別たる若智のものよ妻但らる年月と限
 ら居候て身身整くもろく不固るのより後見はるし保令其間寄



繪本巻之三



竊者の
係中
賤をり
おと
り
り
り
り
り

繪本巻之三

十五

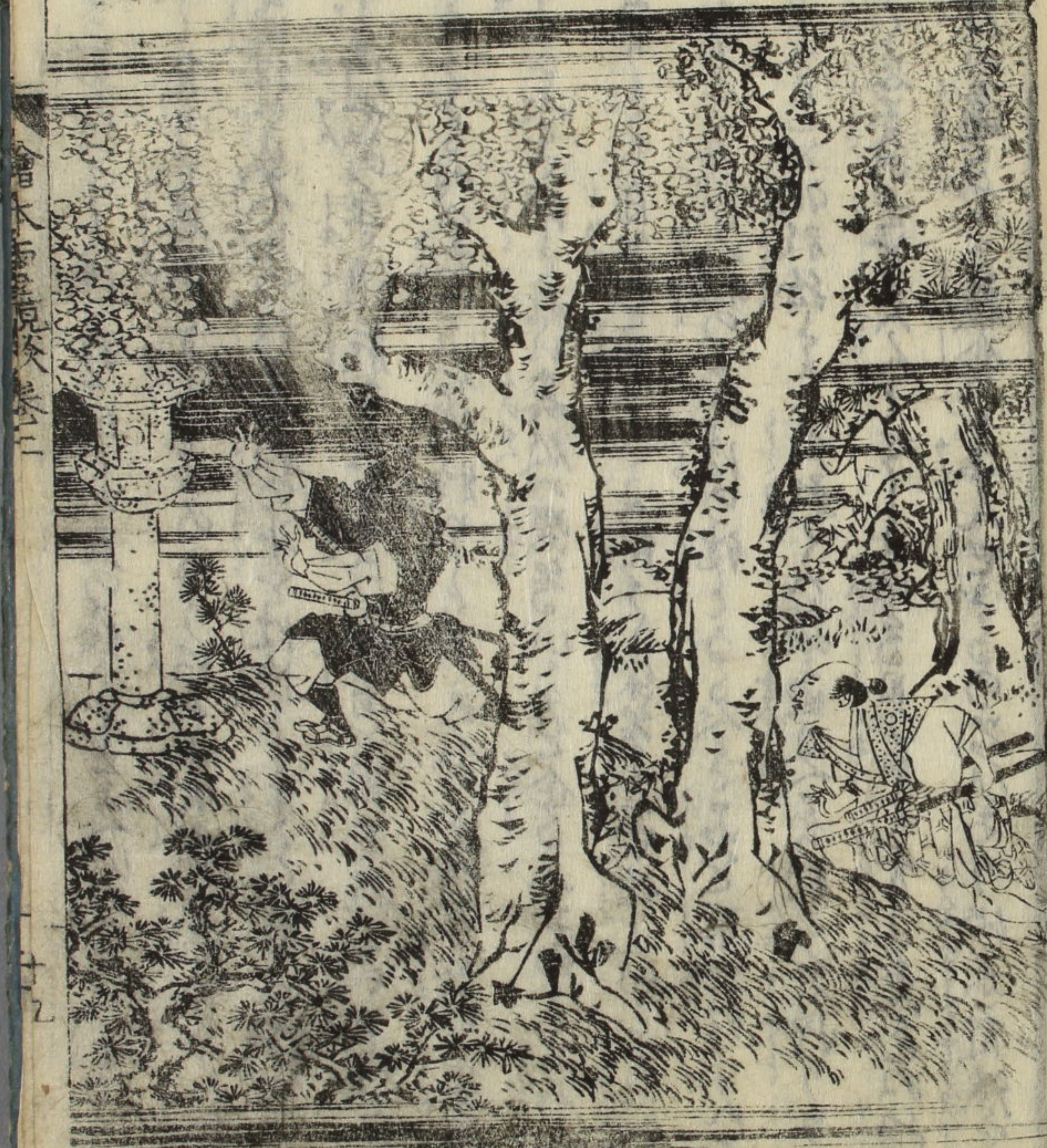
奉終るも私許側はまきく奉事守護結るうへはうもも
 魚遊さし間補はと輝と巧はて月を我則も先は源流が忠流乃
 例ごとと思らる事さるまが其河と流りと一源流源奉りも事
 理と多るも心志未のまは勝りりともくささる事さるも事
 安ん鑿の更と委ねらま玉にま守徳村内記今川は母村田と
 胎の二人の接同其道とほは禁園のもの屋死でめたる別
 鏡山よおかて家居でやまひ大月と懸紐しやまの目くも感これ
 とも大月を不邪止らまは若て其勢位は誇らどや香あつて
 用よままそのの思とま其心と流び初芳とる奉旧も倍
 びく其心流と情とまのまよふりりりり

大月原發判客の流斗と用る流

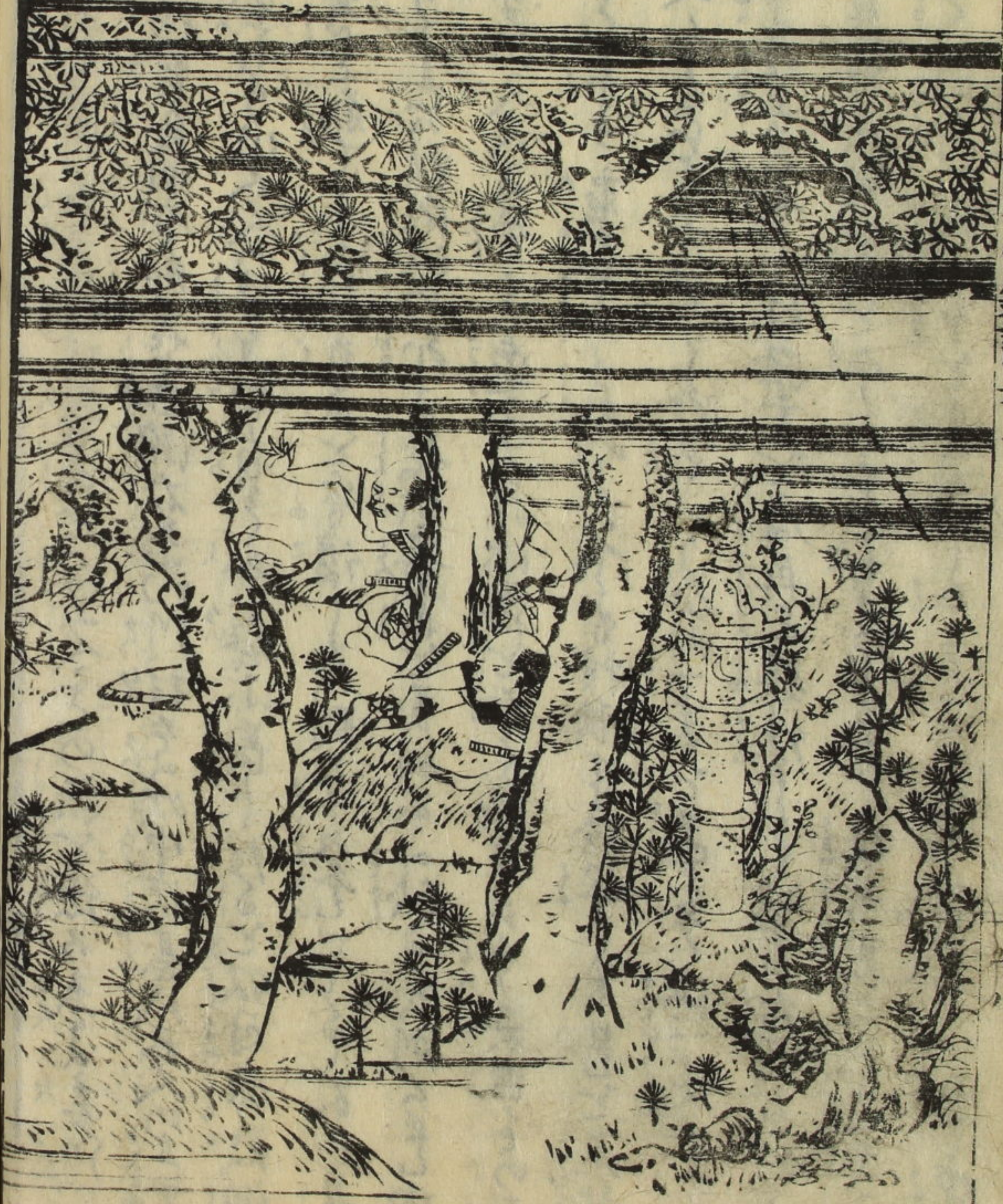
形て地文と奉も才あて義則云内國の形をくまりまはバ大月原
 発熱思通と口しし永一時の平流をのり君と流と流く籠過と
 ゆるりくとも鏡山よは七家のまはと始りま奉者勇の長下教
 多あまは我密斗と情うまの心と情とまのあまはまはあまは
 たあまのまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは
 後病まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは
 家僕の内形はまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは
 密よ其流とまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは
 暑く微涼とまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは
 屋の熱くまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは
 るまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは

室の庭より人殺ありて萩垣の後よりと刀入々々側近村
中庭と刀入殺ありてとて誰とて因ども後らふまじらふ
曲ものさへんと庭ふりてと揚ぐ刀入は早く曲者こそ
たりたり村瀬とてとてとて挿んとするは彼者答ふて揚ぐ
消れと挿くはんとする村瀬とて後よりむづと絶彼も
このふく絶とてとて振振とて村瀬とてつよく答ふと村
瀬勇壯とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
たろろと疎よ何とてとてとてとてとてとてとてとてと
追及刀とて地より山樹林の隈とて披索とてとてとて
詮方とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
刀とて其状并囊のてとてとてとてとてとてとてとてと

一後者抱てとてとてとてとてとてとてとてとてと
と清を良朋を郎名寄池右岸の川村及次中其八人の
血あかりけ又人の皆才智有く武藝小長じたとて以て庫板例
頭等と初て木魚の邊のと守護し義則とてとてとてと
るりてとて村瀬以外に登り客書と義則とてとてとてと
見まひ又大い驚きと遠小大月原とてとてとてとてと
アとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
捕へんととてとてとてとてとてとてとてとてとてと
迷下冷とてとてとてとてとてとてとてとてとてと
思はれや義則とてとてとてとてとてとてとてとてと
有とて曲者と情てとてとてとてとてとてとてとてと



繪本國語卷二



其二

繪本國語卷二

善いなる人々を以て己の徳を以てし、善いなる人々を以て己の徳を以てし、
徳を以て己の徳を以てし、善いなる人々を以て己の徳を以てし、
思ふに、己の不臣の族毒殺の事とは、扶く事なく、事と為るべし。
是れ、所生の守護最ると、善い同者と用て、およく、天と、
ある、善い、村の天の、人、成、終、や、く、又、人の、もの、と、色、け、守、護、試、
候、ま、と、と、物、と、な、い、其、故、の、深、考、い、ち、と、企、る、ふ、お、わ、く、く、人、の、内、
推、る、う、と、も、自、身、と、用、て、ま、と、絶、く、深、考、が、事、成、り、候、と、色、け、
と、あり、て、善、い、人、の、もの、後、の、徳、と、る、ま、と、お、と、百、持、候、人、や、候、
た、る、ま、と、と、ぬ、れ、終、り、ま、れ、く、熱、意、更、々、則、と、思、候、り、ま、い、予、
得、く、忠、義、の、士、と、夫、人、と、せ、ま、と、女、を、見、有、く、ま、い、免、免、の、終、り、
再、度、の、遠、る、ま、と、夜、食、と、每、ん、せ、ま、の、ま、い、あり、ゆ、末、首、孫、官、を、

の、物、と、い、は、さ、る、や、と、終、る、ま、と、大、目、を、く、い、は、さ、い、あ、ま、終、と、ま、り、し、
夜、食、と、ま、と、種、く、の、物、と、色、け、し、熱、意、更、々、則、と、思、候、り、ま、い、予、
い、ま、と、天、の、由、國、と、い、及、で、再、び、今、衆、の、衆、と、設、け、守、護、の、忠、臣、と、
臣、人、と、せ、ま、と、収、取、力、を、不、臣、の、もの、必、定、御、國、と、あ、る、ま、と、必、せ、り、
後、ま、と、お、わ、く、い、は、後、所、側、の、守、護、と、大、切、の、義、と、ま、と、人、の、もの、
今、夜、の、始、末、と、終、同、ま、と、お、も、ま、と、終、り、て、守、護、と、ま、の、首、孫、官、
ま、と、深、考、忠、義、の、心、百、倍、死、力、と、ま、と、く、守、護、と、ま、と、人、の、
村、へ、候、令、判、官、の、類、あり、ま、と、枕、と、ま、と、く、ま、と、ま、と、
臣、の、族、は、斗、相、を、く、ま、と、遠、なる、處、と、ま、と、く、て、竊、と、初、筋、と、候、
ま、と、く、ま、と、く、首、孫、官、と、ま、と、く、ま、と、義、則、と、候、び、ま、と、
通、方、人、の、及、ぶ、ま、と、あ、ら、び、編、ま、と、斗、儀、不、候、と、ま、と、終、り、ま、と、

是より長き名者等の又人とて是れ其始末と事しく後同これとて
 名者木太は登大月之寛と教るとはく或は大月がおの二は思は
 成精せんとい中よぞ推する長則とて是よりく是法はと終
 ひるひる大月と法く用ひ事し神測よりく美事のも法とと
 のひるは後の曲者ハ是大月が東来也海舟方助るりは法
 斗ひて我則とと秋とて立國の諸良と終りし愛良と終りし
 己が忠義と死く思と市て堂とと柱るまのりしりとも
 斗るもよるまは誰有て是と終るものこそあうらと

繪本言鏡談卷之二畢

